



京大ウィークス2025

栽培植物起原学分野 研究室 特別公開



京都大学

多様な栽培植物の起原と進化に関する
基礎研究の現場をのぞいてみませんか？

圃場見学

&

ミニレクチャー

コムギとその近縁野生種を栽培する圃場の見学（30分）*雨天中止（小雨決行）と
コムギの種子を系統保存する取組みについてのミニレクチャー（30分）
を予定しています。

参加費
無料

2025年6月7日(土)・8日(日)

午前の回 10:30-11:30

午後の回 13:30-14:30

京都大学大学院農学研究科 応用生物科学専攻

栽培植物起原学分野 研究室

〒617-0001 京都府向日市物集女町中条1 敷地内禁煙

<http://www.crop-evolution.kais.kyoto-u.ac.jp/>

アクセス・阪急電車「洛西口」より徒歩約10分

・バス停（京都市バス/ヤサカバス/京阪バス）「物集女」より徒歩約2分 *駐車場はありません（公共交通機関をご利用ください）

対象：小学生以上（小学生の参加は保護者の同行が必要）

定員：各回12名（要事前申込・先着順）

申込方法：必要事項を明記の上、下記問合せ先アドレスまでメールにてお申し込みください。（申込受付期間：5/22-5/30）

必要事項 ①氏名（参加者全員分） ②参加人数 ③参加希望日時

問合せ先：kokaidaysenyou.cropevol.ku@gmail.com





沿革・研究分野

当分野は、コムギの起原の遺伝学的研究において世界的な成果を挙げた木原均博士（1893-1986、京都大学名誉教授）により、1942年に向日市物集女町に発足した（財）木原生物学研究所に始まります。1959年に研究所の敷地と設備が京都大学に移管され、以来、京都大学の研究・教育活動を担ってきました。作物進化全般を研究対象とし、多様な栽培植物の起原と進化に関する基礎研究を行っています。

コムギ遺伝資源の系統保存事業

当分野では、木原均博士のコムギ遺伝学研究を端緒として、世界各地のコムギとその近縁野生種の種子を収集保存してきました。また、系統として整理し、増殖した種子を国内外の研究者の求めに応じて研究素材として配布してきました。この取り組みは1952年に文部省の系統保存事業に指定され、2002年以降は文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の中核機関「NBRP・コムギ事業<https://shigen.nig.ac.jp/wheat/komugi/>」として継承されています（2025年現在、第5期）。当分野で保存する遺伝資源には、特定地域で長年栽培され、地域の環境特性と文化的希求性によって形成された地方品種や、紛争等の困難にある地域で採集されたコムギおよびコムギ近縁野生種が含まれます。これらを気候変動や病害発生に対応した品種育成、紛争終結後の農業再建に提供するとともに、世界各地の研究者・育種家と協力して、世界の食の安全保障に寄与したいと考えています。

遺伝資源（コムギおよび近縁野生種）

総系統数：17,227系統

*Triticum*属植物：11,607系統

*Aegilops*属植物：3,985系統

